

10月15日(火)

令和元年(2019年)

第893号

月刊

毎月15日発行(1・8月は25日)

町田ジャーナル

株式会社 町田ジャーナル社

発行所

東京都町田市旭町2-1-3 〒194-0023
編集兼発行人 堀江行人 電話・FAX 042(726)8447



登録証

町田レジ

〒194-0035 東京

TEL 042

E-mail mrk

《人物インタビュー》 聞き手・堀江行人 町田市経営診断協会理事長

太細 貞治さん



今回は、本年六月に経営診断協会の理事長に選任された太細貞治さんにお話を聞きました。太細さんのご先祖は戦国末期まで伊達家の家来でしたが、政宗公の奥州仕置以降、巨理伊達家の家来となり、太宰から太細と名を改めたそうです。記者 お名前の由来は分かりましたが、ご出身はどちらですか。

今回は、本年六月に経営診断協会の理事長に選任された太細貞治さんにお話を聞きました。太細さんのご先祖は戦国末期まで伊達家の家来でしたが、政宗公の奥州仕置以降、巨理伊達家の家来となり、太宰から太細と名を改めたそうです。記者 お名前の由来は分かりましたが、ご出身はどちらですか。

太細 北海道の伊達市です。明治初期に先祖が入植したからです。記者 現在の中小企業診

断士の仕事に就かれた経緯をお話し頂けますか。太細 私は上京後、NECに入社しました。NECではスーパーコンピュータの開発に携わっていましたが、スパコン開発は大別するとシステムと半導体があり、私は半導体の開発に携わっていました。途中、半導体部門を分社して、NECエレクトロニクスへと移りました。それまで、日本企業では、企画、開発、設計、試作、製造と一手に縦割りで行って、それが強みだったのですが、分業化の波が押し寄せ、いつしか中国、韓国に競争で負けるようになってきました。

断士の仕事に就かれた経緯をお話し頂けますか。太細 私は上京後、NECに入社しました。NECではスーパーコンピュータの開発に携わっていましたが、スパコン開発は大別するとシステムと半導体があり、私は半導体の開発に携わっていました。途中、半導体部門を分社して、NECエレクトロニクスへと移りました。それまで、日本企業では、企画、開発、設計、試作、製造と一手に縦割りで行って、それが強みだったのですが、分業化の波が押し寄せ、いつしか中国、韓国に競争で負けるようになってきました。

そこで二〇一〇年にNEC、三菱、日立が統合し、ルネサスエレクトロニクスという半導体の会社を立ちあげました。そんな経営統合の中で、私は疲れ果て、翌年三月に会社を去りました。実はそれ以前に、NEC本体がスパコン事業から撤退し、半導体開発のモチベーションもかなり下がっていました。

そんな訳で、将来見通しが不透明になった時に中小企業診断士の資格を取得しました。試験当時、既に五十五歳だったので、知識を詰め込むのはかなり難渋しましたが合格し、在職中に、企業内診断士として町田市経営診断協会に入会しました。記者 サラリーマン当時

の経験は生きましたか。太細 はい、会社でのプロジェクトマネージャーとしての業務経験がすごく役に立ちました。品質管理、生産管理等や、開発段階からマーケティングで、どのような売れる商品を開発するべきかをフィードバックして着手する、そういう考え方が必要です。昔のように出来たものを売ると云う、プロダクトアウトのやり方は、今は立ち向きません。お客様の目も肥えてレベルもアップしている。そんな中、お客様が欲している機能や付加価値を探り出すなければなりません。しかし、今もなお、中小企業ではプロダクトアウトのやり方が残っています。より一層売れる為には、ニーズ、ウォンツを知った上で商品を提供しなければなりません。私が中小企業の経営者の方と面談すると「へえ、そうなんですか」と

重宝がられ「自分も役に立つんだ」とこの仕事にやり甲斐を感じました。事業の進め方をさらに工夫してアドバイスしたいと思います。私がラッキーだったのは、この仕事を始めてすぐに、東京都から「事業可能性評価」というお仕事を頂いたことです。町田市経営者診断協会も前理事長の猿山康継先生の時に、会員数も増やし、若返りも果たしました。念願だった会の法人化もこの六月総会で正式に承認されました。現在は、国を挙げて創業への取組が活発になっています。これは日本が欧米に比べて創業社率が半分の水準だからですがその効果もあつて以前よりも格段に我々専門家の需めも増えています。町田市経営診断協会は専門家のコンサルチームとして経営に携わる皆様を総力を挙げてサポートいたします。